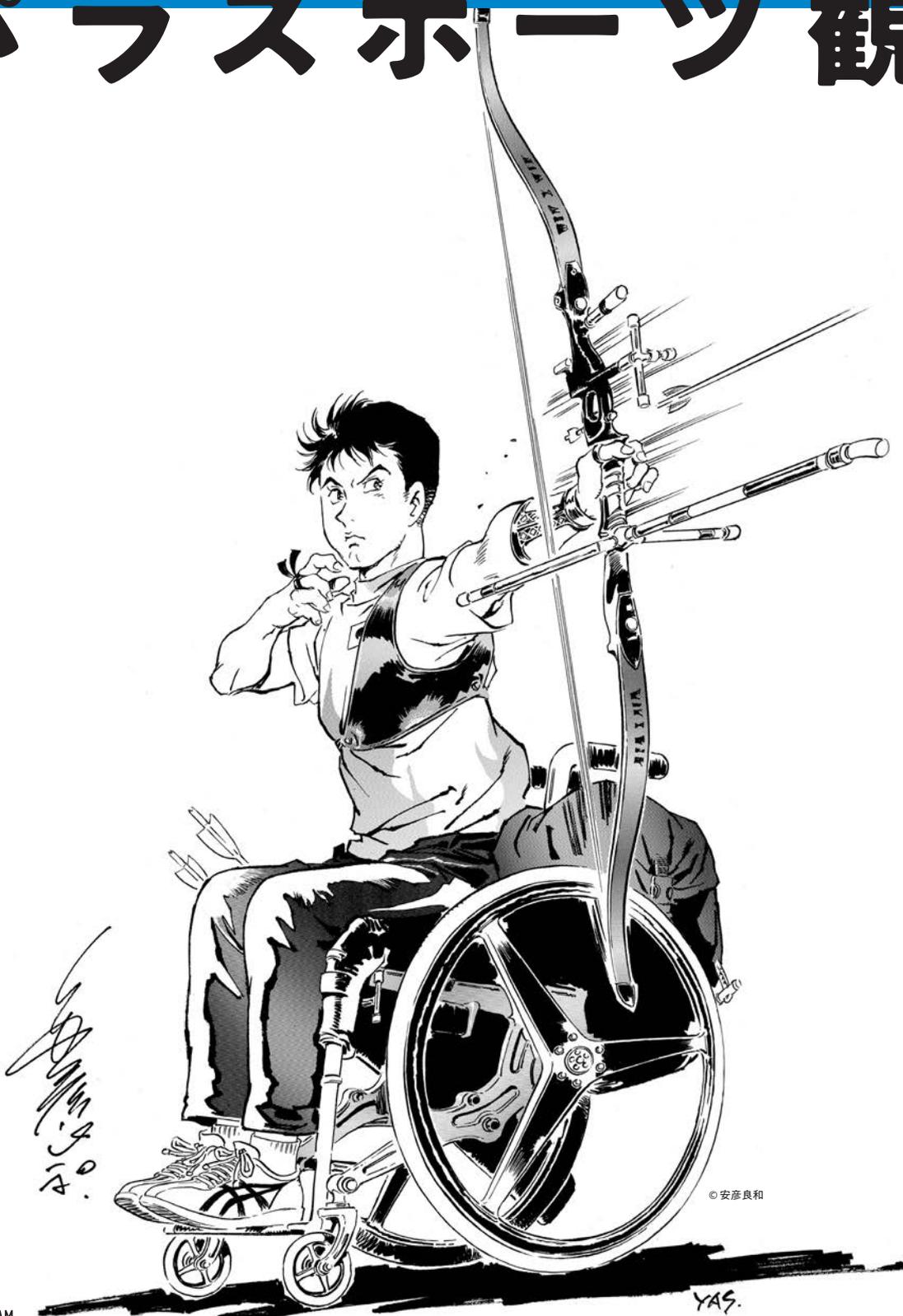


はじめての

パラスポーツ観戦

かんせん

Archery
アーチェリー



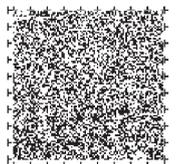
©安彦良和

YAS.



みんなで観に行こう、
パラスポーツ。

おうえん かんせん たの
応援のコツがわかると、観戦はもっと楽しくなる!



矢を放つ前の緊張感と、的の中心を射抜いた瞬間の喜び。 選手の気持ちになって観戦できる明快なルールが魅力!

01

競技概要

1960年の第1回ローマ大会から正式競技として採用されています。集中力を最大限まで高めた状態で矢が放たれる独特の緊張感と、矢の当たった場所によって得られる点数で勝負が決まる明快なルールが人気です。



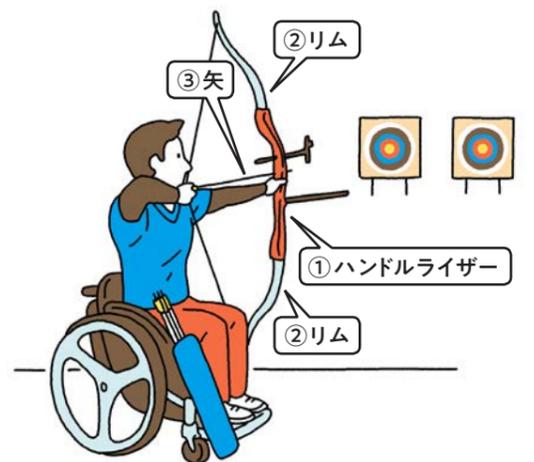
02

ルール説明

72射(1射10点満点で最大720点)のランキングラウンドの合計得点でランキングを決め、決勝トーナメントの組み合わせを行います。決勝トーナメントは1対1の対戦方式で競います。基本的には健常者競技と同じですが、パラリンピックではコンパウンドも採用されており、的までの距離は50m。的の大きさ・形は80cmで、6リング、青色(5点)までになっています。

リカーブ部門

滑車が付かないリカーブボウ(recurve bow)を使用します。足腰の障がいで上半身の機能に制限がない選手によく使われます。



- ① ハンドルライザー
23~27cmの弓の土台部。別パーツを取り付けて使用する。
- ② リム
弓の両端部分で硬さ(ポンド数)・長さを選択できる。
- ③ 矢(アロー)
体格や技術に合わせて、矢の長さ・太さを選択(アルミニウム製・カーボン製)。



©エクセスワン

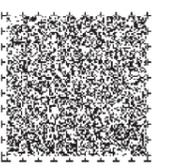
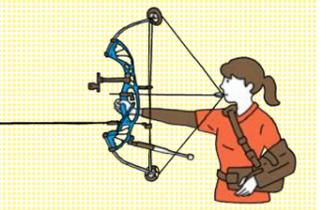
03

見どころ&応援方法

残された機能を最大限発揮するため、選手一人ひとりが様々な工夫をするその多様さはアーチェリーならではの見どころです。例えば上肢欠損の選手が「リリーサー」という手を使わずに矢を放つことのできる道具を肩に装着したり、体幹が安定しない選手がそれを克服するために何度も試行錯誤しながら世界でたったひとつの車いすの座面の開発に取り組んだり。こうした選手たちの工夫を観察するだけでも飽きることはありません。中には両腕の欠損をもろともせず、足と口だけでトップクラスの成績を出している選手も! また、2012年のロンドン大会、2016年のロンドン大会の二大会連続でオリンピック・パラリンピックに同時出場した選手がいるように、健常者と同じ舞台上で戦うことができる選手がいることもアーチェリーならではの魅力でしょう。選手は観客席から聞こえる声援が背中を押してくれると言いますので、めいっぱい、エールを送ってください。矢を放つ前の緊張感や中心を射抜いた瞬間の喜びを、選手の気持ちになって観戦すればさらに面白いはずですよ。

アーチェリー観戦が もっとおもしろくなる COLUMN

リカーブは健常者と同じ70m、コンパウンドでは50m先を狙うパラアーチェリー。じっくりと時間をかけて狙いすまして矢を放つ姿を想像する方も少なくないでしょう。しかし、実際に競技会場で見ると、意外にも次々と矢が放たれていきます。弓を引いて矢を放つまでの時間は、2、3秒という“早撃ち”する選手がほとんどです。その理由の一つは体力を温存するため。アーチェリーの大会は予選ラウンドで72射を放ち、さらにその後には決勝トーナメントが控えているというハードスケジュール。そのため、選手たちはかたがたに体力を温存して決勝トーナメントにいくかにも注力しているのです。ぜひ会場で見ると、選手が矢を放つ姿をじっくりと見てみてください。テンポよく“時短”で、しかも正確に矢を放っているかどうかに注目すると、その選手の実力の度合いが垣間見られるはずですよ。



04

クラス分け

パラリンピックでは、**肢体不自由**の選手が対象です。障がい**の**重度なW1クラスを除いて、障がいによるクラスではなく使用する**弓**によって種目を分けています。

クラス	対象となる障がい
W1クラス	車いす使用の四肢麻痺(頸髄損傷)。もしくはそれに相当する障がい。体幹が効かない。
W2クラス	車いす使用の対麻痺(胸・腰髄損傷)。もしくはそれに相当する障がい。
STクラス	立位もしくは、いすに座って競技する。

カテゴリーは、W1オープン、リカーブオープン、コンパウンドオープンがあり、**男女別の個人戦と男女のペア戦の3種類**で計9カテゴリーあります。

カテゴリー	対象となるクラス	使用する弓
W1オープン	W1	リカーブ、コンパウンド
リカーブオープン	W2、ST	リカーブ
コンパウンドオープン	W2、ST	コンパウンド

一般社団法人 日本身体障害者アーチェリー連盟
<https://nisshinaren.jp>



TEAM BEYONDについて

パラスポーツ(障がい者スポーツ全体を指して使用しています)を応援する人を増やすため、東京都が2016年から展開しているプロジェクトです。スポーツをする人も、観る人も、支える人も、あらゆるメンバーがひとつのチームとなってパラスポーツを盛り上げていきます。



みんなで観に行こう、
パラスポーツ。

サイトへのアクセスはこちらから

www.para-sports.tokyo/



SNSも
更新中!



@parasports.tokyo



@tokyoparasports



@tokyoparasports



TOKYO
METROPOLITAN
GOVERNMENT